

2013～2014年度

大磯ロータリークラブ会報

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

第2272回 例会

平成26年3月13日 (晴) No.32

■司会：原 千明

■点鐘：百瀬 恵美子

■合唱：我等の生業

◇プログラム ・3月20日：休会（定款適用） ・3月27日：斎藤 正淳さん ・4月3日：笹尾 政儀さん

◇出席報告	例会	会員数	出席数	出席率	メークアップ	修正出席率	◇欠席者(5名)
	2272回	18(15)	10	66.67%	—	—	小林、宮澤、石山、原卓 斎藤(正)さん
	2270回	18(15)	12	75.00%	—	—	◇メークアップ(0名)

◇おめでとうございます



誕生日祝：

大藤さん (3/8)

56才になりました。定年まであと4年、第4コーナーを回ったところ。もう少し頑張ろうと思います。同年代(昭和33年)でいいますと原辰徳、石川さゆ

りがいます。昭和33年ですと東京タワーができた年です。

◇ひとこと

躰：皆様も幼児の頃から何かしら家事のお手伝いをなされた事と存じます。例えば朝起きて自分の寝具を畳むとか庭の植木に水を撒いたり、庭の掃除等を子供に自分のする事に責任感を持たせたり、自立心を育む事は大変重要な事です。

三つ子の魂100までもと言われます様に幼児期か

笹尾政儀さん



らの躰は大切だと思います。然し現在の親心は先ず勉強そして塾と言った様に子供さん達も大変忙しく家事の手伝いは可哀想だと言う。

子供さん達もお手伝いにも好き嫌いがあって、ドブ掃除、風呂掃除等は汚いもの面倒なものは嫌いで好きなものはペットの世話、水まき焚き火などであると謂う。

本日は子供さんの躰について一言申しました。

◇会長報告

百瀬 恵美子会長代理

今日わ！少し雨が降っていて冷たい陽気です。お身体に気をつけて下さい。



1. 先週理事会があり、次年度ロータリー手帳を全会員に配布する事にしましたので、活用して下さい。

2. 6月納会は6月19-20日に鎌倉で行います。泊まりは鎌倉プリンスホテル。半日観光も予定しております。詳しい案内は後日お知らせします。負担金は1万円としました。

3. 4月20日地区研修協議会があります。当日11:15

李芳にて例会・食事の後車で出発します。登録されている方宜しくお願ひします。研修協議会に出られない方も例会ですのでご参加下さい。

4. 第8グループ地区委員会で平塚緑化まつりEND P OLIIO NOWキャンペーンが行われます。4月26日（土）10:00~15:00平塚市総合公園で行われます。ロータリアンは決められたTシャツを着て参加します。10枚のTシャツを購入しました。

5. 3月11日東日本大震災から3年を経過しました。山田RCより「やまだの作文」を毎年発行しており、40



集にあの震災の様子が伝わる作文があります。復興の願いをこめてその中の一つを読ませて頂きます。

忘れない

山田中学校

三年 山崎 香苗

「じいちゃんとはあちゃん、死んじゃった」という伯父の言葉。いきなりのことで、呆然と立ちつくした。何が何だか本当にわからなくて、祖父と祖母が死んでしまったことを受け入れられなかった。いや、受け入れたくなかったのかもしれない。涙も出なかった。あんなに大好きだった二人がいきなりいなくなってしまうなんて。

三月十一日、私はこの日の事をずっとずっと忘れない。

この日からすべてが変わってしまった。誰もが想像もだにできない、今まで経験したことがない事が起こったからだ。

私達が下校しようとしていた午後二時四十六分。大きな大きな地震が起こった。そして大津波警報までも……。私達はすぐ校庭に避難した。すると下の方から「ゴーッ」という音が聞こえてきた。津波の音かもしれないと思った。私はその時、家族、そして愛犬の事が頭に浮かんだ。その日はそのまま近くの高校に泊まったため、家族の安否もわからなかった。勿論どこにいるのかも。そして大好きな山田の町も。情報は全くなかった。みんな、何も食べず寒さに震えながら不安な夜を過ごした。私は、ただただ家族、そして愛犬が生きることだけを願っていた。願うことしかできなかったのだ。

次の日、伯父が迎えに来てくれた。そして伯父は

祖父母が亡くなったことを私に話してくれたのだった。

はじめて外に出た私の目の前に広がる現実。周りには何もなくなっていた。壊れた家、町の中に流れた船、焼け野原になった町並み・・・私の知っている山田ではなくなってしまうていた。言葉が出なかった。そんな状態で歩いていると、「お母さん南小学校の方にいるっけよ」と誰かが教えてくれた。行ってみるとそこに母がいた。母は疲れてぐったりしているようだった。でも、会えたことが本当に嬉しかった。私は母に、「ハチは」と一言。一言しか言えなかったのだ。「ハチは流されたよ」と母も一言。母はそれ以外のことは言わなかった。その瞬間、いろいろな思いがこみ上げてきた。涙が一気にあふれ出た。

私の大好きだった犬。ハチは、小学校時代私がいろいろ悩んでいた時、助けてくれた。私が学校で嫌な事があった時、家に帰るとワンワン、吠えて待っていてくれた。ハチは心の支えだった。でももういない。そんなことを思うと涙ばかり出て来た。絶望だと思った。父も母も死んでしまうところだったという。父は祖父と祖母と一緒にいて寝たきりの祖父を抱え、家ごとそのまま海に流されたそうだ。父は「自分だけ助かってしまった・・・」などと悔しげに言っていた。母は仕事場において逃げようとした時に津波が目の前まで押しよせ、高い所にあがったが首のあたりまで水につかっていたそうだ。

そして一カ月遅れで学校が始まり、日がたつにつれ、全国、いや世界中から、たくさんの応援や支援、物資をいただいた。たくさんの人に支えられていることを実感した。自衛隊や警察官の方々も町のためいろいろなところから来て働いてくれている。そんないろいろな支えの中で日々生活していると自分も頑張らなければならないと思うことができるようになった。そして町のために貢献したいとも思った。

しかし、そんなことを思っていた矢先、突然もう一人の祖父が亡くなってしまった。せっかく前向きな気持ちになれたのに、失ったものが多すぎてまた心が沈んでしまった。立ち直れなかった。どうして大好きな人ばかりいなくなってしまうんだろう。悔しかった。まだまだ一緒にいたかったのに。自分自身もうダメだと思った。

しかし、何日かたった夜、私が寝ていた時枕元で犬の鳴き声がした。ハッと目が覚めると、その声はハチの声だった。それと同時に私は金しぼりになり、とても苦しかった。でもその間も鳴き声は止まらなかった。ハチは私に何かを伝えに来たのだろう・・・。

その時から私の考え方も変わってきた。たとえこ

こに、二人の祖父、祖母、ハチがいなくても、私の心の中にはずっと生き続けているから。

震災があつてからもう半年・・・あつという間のように感じた。その中で母がよく私に言う言葉がある。私が悩んだり辛いときに、母はこう言う。「二人のじいちゃん、ばあちゃん、ハチが守ってくれているから」

私はこの言葉を胸に毎日頑張っている。

以上

この文章を読んで復興のため立ち上がっている力強さを感じました

◇ホワイトデー花束贈呈：

原SAA：2月14日バレンタインデーに女勢軍から甘い甘いチョコレートを頂きました。そして明3月14日はホワイトデーでございます。1日早いですが女性軍にお花をプレゼントしたいと思います。男性軍代表3名の方、女性の3名の方前へお出で下さい。



片野さん→百瀬さん

井上さん→太田さん



新宅さん→手塚さん

百瀬さん：皆さんホワイトデーのお花有り難うございます。気を遣わせてしまって申し訳ありません。お花を貰う機会は少ないので、大変嬉しいです。女性3人を代表してお礼申し上げます。

◇幹事報告

昨日藤沢グランドホテルでPETSがありました。1日中座ることなどない生活なのでお尻が痛くて閉口しました。如何に肉が落ちているか実感しました。ロータリーの事をよく知った人達の中で話をさせられて疲れました。

守屋 紀忠幹事



1. 例会変更：平塚南RC
2. 冊子受領：ハイライト米山
3. 4月24日（木）例会を4月20日（日）11:30に変更。例会後地区研修協議会に出発します。研修会に出ない方も出席下さい。

◇委員会報告

☆河本親秀さん：

1. 昨日は守屋さん、朝10時から午後7時頃までPETS（会長エレクト研修会）での勉強ご苦労さまでした。



私も一緒に出席していました。私は気楽に横から見ただけでしたが、会長エレクトさん達は資料と首っ引きで懸命に勉強されていました。また二つの分科会=「会長の責務」と会員増強」のセッションがあり、各人発表させられて守屋さんもお話しておられました。

2. 先週配布されましたロータリーの友縦組み9~12ページに「わがまち そしてロータリー 福島県いわき市」と題して特別記事が掲載されております。この中に我が姉妹クラブのいわき鹿島RCの曾我会長、豊田前会長の名があり、セント・キャサリンIACの募金から始まり、江名、永崎小学校を我が第8グループと共同で支援した事、大磯と「湘南」つながりの姉妹提携したこと等が掲載されています。是非お読み下さい。

3. 昨日のPETSの中で出た話ですが、ローカル紙の記者にクラブの卓話に来て貰った事がロータリーの理解と公共イメージを上げる良い切っ掛けになったとのことでしたので報告します。

☆片野一雄さん：

昨日ガバナー事務所の柚木さんと相談してきました。今までGSEメンバーとして沢山の人が派遣されていますが、纏めてOB会をやろうという相談です。以前大磯のドリーゼアンで行って可成り盛大でした。今の小野寺防衛大臣が青木さんが団長の時のメンバーでしたので、一緒に参加して貰いたいと考えて居ますが・・・忙しすぎて・・・。もう一度集まりたいと考えて居ます。

私が団長でアメリカに行った時、19年前でしたが、モデラー氏宅にホームステイしていた朝、「Mr. katano日本がカタストロフィ（大異変・大災害）になっ

ている」と言われて驚いてTVを見ると地下鉄サリン事件が報道されていた事が忘れられません。

☆スマイルボックス 井上 浩吉さん

- ・百瀬 恵美子さん：大藤さんお誕生日記念おめでとうございます。片野さん卓話たのしみです。
- ・守屋 紀忠さん：卓話、片野さんよろしく申し上げます。大藤さんお誕生日おめでとうございます。
- ・河本 親秀さん：守屋さん昨日はPETS出席ご苦労様でした。大藤さん誕生日おめでとうございます。片野さん卓話楽しみです。
- ・笹尾 政儀さん：大藤さん誕生祝を祝福します。片野さん卓話楽しみにして居ります。
- ・井上 浩吉さん：大藤さん誕生日おめでとう。片野さん卓話楽しみです。
- ・新宅 文雄さん：片野さん卓話よろしく。大藤さん結婚記念日おめでとうございます。
- ・太田 知加子さん：大藤さんおめでとうございます。片野さん卓話楽しみにしております。私、元気になりましたので 又 仲間に入れて下さい。
- ・大藤 勉さん：誕生祝ありがとうございます。3月8日に56才になりました。

◇ 卓 話

◆◆◆ラストサムライと

ワルツ・ステップ◆◆◆

片野 一雄さん



2014年1月17日の冷たい冬の朝、新聞の一面で、フィリピン・ルパング島のジャングルで、太平洋戦争終了後も29年間、潜伏し、生還した元陸軍少尉・小野田寛郎さんの病死を知った。91才であった。

氏が帰国した時からブラジルに移るまで、お世話

をした友人の鈴木啓司君が大磯におり、いろいろとエピソードを聞かせてもらった。

1944年（昭和19年）、陸軍中野学校二俣分校に入り、ゲリラ戦や情報戦を学び、12月30日ルパング島に派遣された。

一式輸送機の窓から見た夕暮れの富士山の姿が深く印象に残り、日本の姿の見納めと思うと万感胸に迫り、涙があふれたという。

45年には終戦を知らせる米軍のビラを目にしていたが、敵の謀略と判断し、終戦を信ぜず、ゲリラ戦を続けた。最期の一人となったが、島に来た上官から作戦解除命令を受けて74年3月、故国の土を踏んだ。

私は74年5月、スウェーデンでの会社のプレゼンテーションを行う事になり、英会話学校の3ヶ月の合宿に入っていた。ある時、米海兵隊の出身で、日本と日本軍に親しみを持っていた教師の米人が、小野田さんのことに興味を示し、朝の授業開始の際、「小野田は立派な日本帝国軍人であった」と言った。そしてJapanese Imperial Army Lieutenant ONODA He made a good military. Salute=敬礼」と述べて日本の陸軍式の敬礼をして見せた。（小野田氏の写真参照）

K・I（講談社インターナショナル）の役員をしているS. Keiji君は、小野田さんの世話係を引き受けて、日本と海外に同行していた。

ハワイの日本人会の招きは盛大で、「日本武士道の鑑」と賞賛された。特に歓迎のダンスパーティの際はワルツの美しいステップを披露し、喝采を浴びて、ラストサムライのパフォーマンスは当地で話題になったという。

昨日の朝日新聞には「世間からは立派な情報将校、さすがは帝国軍人と英雄視されたり逆に軍国主義の犠牲者と同情されたりする事にうんざりしていた。戦前は旧制中学を卒業して17才で漆貿易商社に就職した。中国の漢口や上海で2年程働いた。フランス租界に出入りしてジャズを聴きダンスを楽しみ自由な空気をたっぷり吸った。当時のことを振り返る時一番楽しそうな顔を見せた。最期の日本兵として延長戦を戦い、51才で帰還し、更にブラジルに渡り牧場主に。日本で自然塾を主催し講演して廻った。ロスタイムが40年で、91才まで現役で大往生とは凄すぎる！」

まさに一生をこのように有意義に過ごした人は無いんじゃないかと私は感じます。

以上